

## 一般社団法人神奈川県溶接協会の歩み

昭和30年7月付の日本溶接協会の都道府県支部の結成についての要望を受けて以下設立打ち合わせ会、設立準備会等を経て日本溶接協会神奈川県支部が設立されました。

### 社団法人日本溶接協会神奈川県支部～一般社団法人神奈川県溶接協会へ

#### 神奈川県支部設立打合せ会(神奈川県商工部が発起人の中心となる)

昭和30年 昭和30年12月7日 ・会場 横浜貿易協会第1会議室  
(1955年) 挨拶 神奈川県商工部長

#### 神奈川県支部設立準備会

昭和31年 昭和31年8月28日 ・会場 横浜貿易協会第1会議室  
(1956年) 県商工部長・工務課長主催

社団法人日本溶接協会神奈川県支部	設立	昭和32年3月9日
一般社団法人神奈川県溶接協会	移行	平成21年4月1日

1 昭和32年～平成29年					敬称略	
年度 4月～3月	主な出来事	支部長	団体会員数 (会社・工場)	評価試験 受験者数	その他の主な事業	全国溶接技術競技会 神奈川県代表 優勝者
昭和32年 (1957年)	<b>設立総会 3月9日</b> 神奈川県水産会館 挨拶 県商工部長 事務局を神奈川県商工部 工務課内に置く (常任理事 工務課長が兼務) 事務局員は県の職員が兼務 昭和39年3月まで	柴田 晴彦	74社	54名	・手溶接受験準備講習会(学科・実技)の実施 現在に至る ・技術講習会『アルゴンアーク溶接及びアークエアガウジング法』	全国都道府県支部溶接コンクール 現・全国溶接技術競技会に参加し 現在に至る 第一回 大会は 1951年 会場 東京 石川島播磨重工業(株) 神奈川県に溶接協会はありませんでしたが 神奈川県の選手が優勝しています。 <b>長谷鉄工所 鈴木清美</b>
<b>設立時役員</b>						
昭和32年度	役職	氏名	所属			
	支部長	柴田 晴彦	横浜国大 教授			
	副支部長	浅沼 博	日本鋼管(株)鶴見造船所造船部長			
	常任理事	長瀬 三郎	神奈川県工務課長			
	理事	高市 利夫	富士電機製造(株)川崎工場原材課長			
	理事	雲瀬 富三郎	三菱日本重工(株)横浜造船所修繕部船体課長			
	理事	松岡 忠正	浦賀船梁(株)浦賀造船所溶接課長			
	理事	柳田 敏夫	大島工業(株)労務課長			
	監事	山内 一能	バブコック日立(株)横浜工場			
	監事	福島 三郎	(株)福島鉄工所			
昭和33年 (1958年)	第1回神奈川県 溶接技術コンクール開催 (神奈川県と共催) 会場 神奈川県工業試験所 手溶接 28名 ガス溶接 20名 以後毎年開催平成29年で 60回になりました	柴田 晴彦	97社	68名	・第1回 神奈川県溶接技術コンクール 神奈川県及び支部共催 会場 神奈川県工業試験場 ・講習会『軟鋼用溶接棒について』講演と実習及び映画 ・講習会『炭酸ガス 酸素アーク溶接について』講演と実演 ・講習会『ステンレスの溶接について及びハードフェーシング溶接 について』講演と実演 ・非破壊講習会『溶接部に対する超音波探傷法について』 ・研究会『溶接工の安全について』講演及び器具の展示解説	昭和33年度(第5回)全国溶接技術競技会 (1958年) 会場 東京都立工業奨励館 <b>優勝</b> <b>被覆アーク溶接の部</b> <b>鈴木 茂克</b> 日立造船(株)神奈川工場
昭和34年 (1959年)		三上 博	105社	173名	・講習会『やさしいアーク溶接』テキストとして講義 ・溶接技術講習会『溶接作業と溶接棒の合理的な選択と使用について』 『特殊鋼の溶接並びに補修溶接の施工要領について』 『鋳物の溶接について』	
昭和35年 (1960年)		三上 博	113社	不明	・溶接技術相談の開始 相談件数8件	昭和35年度(第7回)全国溶接技術競技会 (1960年) 会場 神奈川総合職業訓練所 <b>優勝</b> <b>被覆アーク溶接の部</b> <b>山武 進</b> 日本鋼管(株)鶴見造船所

昭和36年 (1961年)		三上 博	120社	200名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・溶接技術講習会『アークエア法について・交流アークエアガウジング法の実際について・ドイツに於けるろう付けの現状について』</li> <li>・アーク半自動溶接機の講習会 『イナートガス溶接一般について』 『炭酸ガスシールド半自動溶接について』 『アーク溶接法の実践について』</li> <li>・講習会『最新の特殊溶接並びにその溶接装置について』 高張力鋼及び低温用鋼材について・最近の新しい溶接法について 炭酸ガス溶接法について</li> </ul>	
昭和37年 (1962年)		三上 博	129社	223名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アーク溶接技術講習(研究)会及び見学会 『溶接一般について』 及び実技指導 (株)神戸製鋼所藤沢工場</li> </ul>	
2						
年度 4月～3月	主な出来事	支部長	団体会員数 (会社・工場)	評価試験 試験会場 受験者数	その他の主な事業	全国溶接技術競技会 神奈川県代表 優勝者
昭和38年 (1963年)		三上 博	140社	290名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講習会『半自動溶接装置実演及び講演会』 半自動溶接法の原理と利点・溶接機器・溶接条件・応用分野等について</li> <li>・アーク溶接技術講習(研究)会及び見学会 『アーク溶接の基礎的理論・新しい溶接技術・溶接棒の選び方・実演・見学』 富士溶接棒(株)相模原工場・神奈川県工業試験所</li> </ul>	
昭和39年 (1964年)	昭和40年3月から 事務局を 農業機械会館内に移す 事務局が県から独立した	三上 博	198社	284名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技能オリンピック県予選を受託昭和47年まで</li> <li>・技術講習会『被覆アーク溶接法について』</li> <li>・講演並びに実演の会『ヨーロッパに於ける自動・半自動溶接の現況』</li> <li>・実演『自動・半自動溶接の新しい技術の紹介実演』</li> <li>・見学会『日本鋼管(株)鶴見造船所・鶴見製鉄所・東芝科学館』</li> </ul>	
昭和40年 (1965年)		三上 博	218社	555名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検定試験年4回</li> <li>・見学会『神奈川県横浜工業技術職業訓練所・ 神戸製鋼所(株)藤沢工場・いすゞ自動車(株)藤沢工場』</li> <li>・講演会『CSアーク半自動溶接技術講習会』</li> <li>・見学会『神奈川県横浜工業技術職業訓練所・神戸製鋼(株)藤沢工場 いすゞ自動車(株)藤沢工場』</li> </ul>	昭和40年度(第11回)全国溶接技術競技会 (1965年) 会場 石井鐵工所東京工場 優勝 ガス溶接の部 清 一夫 東京芝浦電気(株)トランジスタ工場
昭和41年 (1966年)	事務局を 日本輸出雑貨センターに移す	三上 博	228社	613名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検定試験年10回</li> <li>・溶接基礎技術講習会</li> <li>・見学会『(株)本田鉄工所・日本電気(株)相模原工場・富士溶接棒(株)』</li> </ul>	
昭和42年 (1967年)	支部創立10周年記念式典 記念講演 三鬼陽之助 『最近の経済動向について』 参加者 160名	三上 博	238社	872名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この年から検定試験を毎月実施する</li> <li>・ガス溶接技能講習会募集業務を開始現在に至る</li> <li>・見学会『東急車輛製造(株)・浦賀重工業(株)浦賀工場』</li> </ul>	
昭和43年 (1968年)		三上 博	248社	983名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講習会『半自動アーク溶接基本技術講習会』</li> <li>・講習会『溶接技術指導者講習会』</li> <li>・見学会『東京芝浦電気(株)タービン西工場・ 千代田化工建設(株)川崎工場・東芝科学館』</li> </ul>	
昭和44年 (1969年)	協会設立以来受験者が 1000名を超えた	三上 博	250社	1060名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演会『国内に於ける溶接技能競技会の状況について』 『海外の溶接技能競技会(技能五輪)について』</li> <li>・見学会『国際ウェルディングショー』</li> </ul>	
昭和45年 (1970年)		三上 博	255社	1030名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講習会『溶接技術指導者講習会』 アーク溶接の問題点と考え方</li> <li>・講演会『最近の溶接技術の傾向について』 横須賀地区対象</li> </ul>	
昭和46年 (1971年)	事務局を(財)日本溶接技術 センターに移す	三上 博	277社	1288名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講習会『溶接技術指導者講習会』 アーク溶接の問題点と考え方</li> <li>・見学会『三菱重工業(株)横浜造船所本牧工場・ 日本石油精製(株)根岸製油所・東京芝浦電気(株)浜川崎工場』</li> </ul>	
昭和47年 (1972年)		三上 博	301社	1247名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講習会『溶接技術指導者講習会』溶接技術について 半自動溶接講習会の実際について</li> <li>・見学会『相模原機械金属工業団地・キャタピラー三菱(株)・ セントラル自動車(株)相模原工場』</li> </ul>	
昭和48年 (1973年)	昭和48年度第19回 全国溶接技術競技会開催 期日 昭和48年11月3日 会場 三菱重工業(株)横浜製作所 被覆アーク溶接の部 38名 ガス溶接の部 19名	三上 博	309社	1291名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アーク溶接特別教育の開始現在に至る</li> <li>・講習会『溶接技術指導者講習会』 アーク溶接の問題点と考え方 溶接技術について(ガス溶接を含む)</li> <li>・前年まで依頼を受けて続けていた技能オリンピック神奈川県予選を返上する</li> </ul>	

3 年度 4月～3月	主な出来事	支部長	団体会員数 (会社・工場)	評価試験 試験会場 受験者数	その他の主な事業	全国溶接技術競技会 神奈川県代表 優勝者
昭和49年 (1974年)		三上 博	315社	1863名	・建設省告示1308号による工場調査受託 ・見学会『日本鋼管(株)鶴見造船所・(株)東芝鶴見工場・ 昭和石油(株)川崎製油所』 ・講習会『溶接技術について・アーク溶接の問題点と考え方』	
昭和50年 (1975年)	この年で県補助金カット	三上 博	323社	2627名	・講習会『溶接棒の選び方・使い方』 ・見学会『富士電機(株)川崎工場・東芝科学館・ (財)日本溶接技術センター』	
昭和51年 (1976年)	昭和51年度(第22回) 全国溶接技術競技会開催 期日 昭和51年10月24日 会場 新日本製鐵(株) 製品技術研究所(相模原市) 被覆アーク溶接の部 42名 ガス溶接の部 13名	三上 博	328社	2006名	・講習会『溶接管理について』 ・見学会『三菱電機(株)鎌倉製作所・東急車輛製造(株)』  ・第22回全国溶接技術競技会を金川県で開催 会場 相模原市 新日本製鐵(株)製品技術研究所	昭和51年度(第22回)全国溶接技術競技会 (1976年) 会場 新日本製鐵(株) 製品技術研究所(相模原市) <b>優勝</b> 被覆アーク溶接の部 熊倉 益男 三菱重工(株)横浜製作所
昭和52年 (1977年)		三上 博	336社	2009名	・半自動溶接受験準備講習会を開始現在に至る ・ロウ付け技術受験準備講習会を開始現在に至る ・講演会『溶接構造物に関する講演会』 ・見学会『日本鋼管(株)京浜製鉄所扇島工場』	
昭和53年 (1978年)		三上 博	328社	3377名	講演会『鉄骨構造物の溶接のあり方』 見学会『いすゞ自動車(株)藤沢工場』	
昭和54年 (1979年)		三上 博	324社	3300名	・ステンレス鋼溶接受験準備講習会を開始現在に至る ・『粉じん作業特別教育』を開始現在に至る ・講演会『高張力鋼の溶接割れについて』 ・見学会『職業訓練大学校』	
昭和55年 (1980年)		三上 博	333社	3347名	・講習会『現場に役立つ炭酸ガス半自動 アーク溶接法の理解と溶接機の管理』 ・見学会『(株)アマダ(アマダホール)』	昭和55年度(第26回)全国溶接技術競技会 (1980年) 会場 雇用促進事業団 中央技能開発センター(千葉県千葉市) <b>優勝</b> 被覆アーク溶接の部 鎌倉 広喜 三菱電機(株)鎌倉製作所
昭和56年 (1981年)	社団法人日本溶接協会 溶接技術中央検定場が川崎市に 開設された。 これにより、神奈川県工業試験所 において実施して来た溶接技能 検定試験は溶接技術中央検定場 に移行した	三上 博	349社	4172名	・講演会『アーク溶接ロボットの講演と実演の会』 ・講演会『地震と溶接構造物』 ・見学会『東急車輛製造(株)』	
昭和57年 (1982年)	創立25周年記念式典開催  記念講演 商工部次長 内田均 『昭和57年度神奈川県 商工施策について』  昭和57年度(第28回) 全国溶接技術競技会開催 期日 昭和57年10月31日 会場 溶接技術中央検定場	三上 博	354社	4880名	・講演会『アーク溶接ロボットの講演と実演の会』  ・見学会『(株)東芝浜川崎工場・東芝科学館・ 新明和工業(株)東京サービスセンター』	昭和57年度(第28回)全国溶接技術競技会 (1982年) 会場 溶接技術中央検定場(川崎市)  <b>優勝</b> 被覆アーク溶接の部 松田 浩 三菱電機(株)鎌倉製作所
昭和58年 (1983年)		三上 博	342社	4479名	・講演会『拡散溶接の現状について』 ・講演会・見学会『新しい溶接自動化の具体例に関する実演・解説会』	
昭和59年 (1984年)		三上 博	331社	4458名	・講演会『ヨーロッパの企業視察を終えて』	
昭和60年 (1985年)		三上 博	331社	4657名	・講演会『溶接構造物の破壊事故について』 ・見学会『ファナック(株)』	

昭和61年 (1986年)		三上 博	343名	4590名	・技術講習会『現場に役立つマグ及びパルスマグ』 ・半自動溶接法とその溶接機器の管理・取り扱い』 ・見学会『86国際ウェルディングショー』	
昭和62年 (1987年)		三上 博	330社	4984名	・講演会『界面接合技術の現状と課題』	
昭和63年 (1988年)		三上 博	339社	4884名	・チタン溶接受験準備講習会を開始現在に至る	
4						
年度 4月～3月	主な出来事	支部長	団体会員数 (会社・工場)	評価試験 試験会場 受験者数	その他の主な事業	全国溶接技術競技会 神奈川県代表 優勝者
平成1年 (1989年)	三神支部長が退任し 隈部日出夫支部長と交替した	隈部日出夫	348社	5142名	・技術講習『鉄骨構造でのCAD/CAM導入検討講習会』 ・工場見学と実演『日立精工(株) 最近のインバータ アーク溶接機を中心とする実演と工場見学』	
平成2年 (1990年)	機関紙 K&Wの発行開始 現在に至る	隈部日出夫	359社	5755名	・見学会『日鐵溶接工業(株)習志野工場』	
平成3年 (1991年)		隈部日出夫	359社	6362名	・講演会『ろう付けの現状-主としてろうの種類と特性』 ・見学会『三菱重工業(株)相模原製作所』	
平成4年 (1992年)	全国溶接技術競技会で 神奈川県が2種目同時優勝  この年から全国溶接技術競技会 神奈川県代表選手のミーティング会 を実施する。その後ミニコンクール に移行した。	隈部日出夫	360社	6568名	・技術講習会『鉄骨溶接施工マニュアル講習会』 ・見学会『東急車輛製造(株)』	平成4年年度(第38回)全国溶接技術競技会 (1992年) 会場 雇用促進事業団 沖縄技能開発センター (沖縄県) 優勝 被覆アーク溶接の部 伊牟田拓司 三菱電機(株)鎌倉製作所 半自動溶接の部 田村 雅信 (株)東芝京浜事業所
平成5年 (1993年)	隈部支部長が退任し 池田健司支部長と交替した	池田 健治	368社	6788名	・講演会『日本の鉄の歴史』 ・見学会『荏原製作所(株)藤沢工場』	平成5年年度(第39回)全国溶接技術競技会 (1993年) 会場 雇用促進事業団 ポリテクセンター石川 (石川県高岡市) 優勝 被覆アーク溶接の部 佐久間博章 三菱電機(株)鎌倉製作所
平成6年 (1994年)		池田 健治	374社	7245名	・講演会・見学会『最近のアーク溶接機について』 ・見学会『新日本製鉄(株)鉄鋼研究所』	
平成7年 (1995年)		池田 健治	373社	6941名	・講演会・見学会『最近の溶接材料について』 ・見学会『日本鋼管(株)鶴見事業所』	
平成8年 (1996年)	池田支部長が退任し 相原正公支部長と交替した	相原 正公	373社	7126名	・講演会・見学会『最近の自動溶接システムについて』 ・見学会『全日空羽田メンテナンスセンター』	
平成9年 (1997年)		相原 正公	364社	7502名	・見学会『住友重機械工業(株)横須賀造船所』 ・講演会『ステンレス鋼溶接の実際とその応用』 ・講演会『アルミ及びステンレス鋼薄板構造物の自動溶接施工について』	
平成10年 (1998年)		相原 正公	358社	7023名	・講演会・見学会『橋梁製作工法と溶接工法について』	
平成11年 (1999年)		相原 正公	336社	6935名	・講演会・見学会『最近のレーザー加工技術について』	
平成12年 (2000年)		相原 正公	406社	6090名	・講演会・見学会『メガフロートの洋上接合技術』 ・講演会『ステンレス鋼とチタンの溶接技術の実際とその応用』	

平成13年 (2001年)	平成13年度(第47回) 全国溶接技術競技会開催 期日 平成13年10月29日 会場 三菱重工業㈱横浜製作所 被覆アーク溶接 54名 半自動溶接 55名	相原 正公	446社	6162名	・講演会・見学会『溶接技能伝承に於けるIT化の試み』  この年から全国溶接技術競技会は主催社団法人日本溶接協会は変わらないが 全国溶接協会各地区委員会と主催県の共催となった。 これにより、競技会名は 全国溶接技術競技会東部地区神奈川県大会となった	平成13年度(第47回)全国溶接技術競技会 (2001年) 会場 三菱重工業㈱横浜製作所 <b>優勝</b> 被覆アーク溶接の部 荒谷富成 ㈱東芝京浜事業所
5						
年度 4月～3月	主な出来事	支部長	団体会員数 (会社・工場)	評価試験 試験会場 受験者数	その他の主な事業	全国溶接技術競技会 神奈川県代表 優勝者
平成14年 (2002年)		相原 正公	453社	5820名	・講演会『すぐ役立つ溶接技術』 ・講演会・見学会『最近に於ける自動車溶接の自動化状況について』	
平成15年 (2003年)	(第49回)全国溶接技術競技会 半自動溶接の部 鈴木淳一	相原 正公	442社	5474名	・見学会『ものづくり先端技術研究センター・つくば宇宙センター』	平成15年度(第49回)全国溶接技術競技会 (2003年) 会場 長崎県立佐世保高等技術線猛攻 <b>優勝</b> 半自動溶接の部 鈴木淳一 三菱重工業㈱横浜製作所
平成16年 (2004年)		相原 正公	449社	5122名	・講演会『ガスシールドアーク溶接の基礎と実際』 ・見学会『日本ウエルディング・ロッド㈱浜北製造所』	
平成17年 (2005年)	4月、ホームページを開設	相原 正公	447社	5482名	・講演会『ステンレス鋼溶接に於けるトラブル事例と原因・対策』 ・見学会『住友重機械マリンエンジニアリング㈱・ 日産自動車㈱追浜工場・海洋開発研究機構』	
平成18年 (2006年)	(第52回)全国溶接技術競技会 被覆アーク溶接の部 柳内信吾	相原 正公	442社	5515名	・講演会『溶接構造物に関する設計・施工・検査技術のポイント』 ・見学会『海上技術安全研究所・日野自動車㈱日野工場』	平成18年度(第52回)全国溶接技術競技会 (2006年) 会場 徳島県徳島職業能力開発促進センター <b>優勝</b> 被覆アーク溶接の部 柳内信吾 ㈱IHI 横浜第一工場
平成19年 (2007年)	創立50周年記念式典を開催した  相原支部長が退任し 村上秀夫支部長となる	村上 秀夫	437社	5681名	・社団法人日本溶接協会神奈川県支部創立50周年記念式典 祝賀会／講演会 期日 平成19年9月15日(土)10時～14時30分 会場 横浜市みなとみらい パシフィコ横浜5階会議場 参加者 272名・記念講演 寺島実郎  ・講演会「溶接技能のデジタル化による溶接の基礎と新展開」 ・見学会『東急車輛製造㈱』『三菱重工業㈱横浜製作所金沢工場』	平成19年度(第53回)全国溶接技術競技会 東部地区 群馬県大会 平成19年10月28日 群馬県前橋市 群馬県立群馬産業技術センター <b>優勝</b> 半自動溶接 清水 茂寿 ㈱東芝京浜事業所
平成20年 (2008年)	平成21年度から  一般社団法人に移行承認ための  臨時総会を開催した  期日 平成21年3月10日	村上 秀夫	432社	6311名	・講演会「技術情報の有効活用」 期日 平成21年3月3日 参加者 33名  ・見学会 平成21年3月3日 参加者 43名  JFEエンジニアリング㈱鋼構造事業部千葉工場  羽田空港D滑走路拡張工事	

平成21年度(平成21年4月)より社団法人日本溶接協会神奈川県支部は一般社団法人神奈川県溶接協会となる

		会長	会員数	受験者数	
平成21年 (2009年)	(社)日本溶接協会神奈川県支部は一般社団法人神奈川県溶接協会に移行した。 代表者は代表理事 会長とな * 第1回神奈川県高校生溶接コンクールを開催する	村上秀夫	433社	6435名	* 平成21年4月1日一般社団法人神奈川県溶接協会に移行 ◎ 一般社団法人化に合わせて神奈川県溶接協会ロゴマークKNGWESを制定及び神奈川県溶接協会旗及び神奈川県溶接コンクール優勝旗を作成した ・講演会『溶接・切断の安全衛生』 62名 期日 平成22年3月17日 会場 (財)日本溶接技術センター ・見学会『住友金属工業(株)鹿島製鉄所・原子力研究開発機構東海研究センター』 平成22年3月12日 34名 * 神奈川県工業高校教師、生徒の夏季研修会を開催する。以降毎年継続する * 第1回神奈川県高校生溶接コンクール 以後毎年継続する ・『アーク溶接特別教育』 78名 ・『粉じん作業特別教育』 156名
平成22年度 (2010年)	* 3月11日 東日本大震災起こる これにより計画停電実施される  *第1回関東甲信越高校生溶接コンクール開催される ・平成22年4月24日(土) ・東京ビックサイト	村上秀夫	420社	5713名	・見学会 ①『三井造船(株)千葉造船工場・JAL羽田機体整備工場』 参加者 50名 ② JAL羽田機体整備工場 期日 平成23年2月23日 参加者 50名  ・講演会『保全技術者に役立つ溶接技術』 3月17日但し大地震による会場利用不可能につき次年度(5月)に延期 ・ 第1回関東甲信越高校生溶接コンクール神奈川県代表選手2名派遣 以後毎年継続する ・『アーク溶接特別教育』 58名 ・『粉じん作業特別教育』 153名
平成23年度 (2011年)		村上秀夫	409社	5893名	・見学会 ① 首都圏外郭放水路 龍Q館 ② 東日本旅客鉄道東京総合車両センター 期日 平成24年2月27日 参加者 45名 ・講演会『保全技術者に役立つ溶接技術』平成22年度から延期して開催した 期日 平成23年5月25日 参加者 86名 会場 ワークピア横浜 ・講演会『最新のアーク溶接機・溶接法の現状と動向』 参加者 60名 期日 平成24年3月16日 会場 神奈川県産業振興センター ・『アーク溶接特別教育』 60名 ・『粉じん作業特別教育』 101名
平成24年度 (2012年)	・ 神奈川県溶接協会交友会設立	村上秀夫	402社	6071名	* 一般社団法人神奈川県溶接協会の役員・委員・講師・事務局等の現役又はOBによる 交流会を立ち上げ設立総会開催した。 神奈川県溶接協会交友会 期日 平成24年11月3日(土) 会場 横浜崎陽軒本店 参加者 58名 ・講演会『スーパーアロイの特性と溶接』 参加者81名 期日 平成25年2月18日 会場 神奈川県産業振興センター (横浜市中区) ・見学会 平成25年3月6日 参加者 45名 見学先 ① (株)荏原製作所藤沢工場 ② (株)東芝京浜事業所 ・『アーク溶接特別教育』 76名 ・『粉じん作業特別教育』 175名

平成25年度 (2013年)	村上会長が退任し 平野賢治会長と交替した	平野賢治	402社	5635名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回溶協交友会総会開催 期日 平成26年1月25日 会場 横浜市中区山下 メルパルク横浜 参加者 50名</li> <li>・講演会『最新の大型構造物について・東京ゲートブリッジと東京スカイツリー』 参加者 64名 期日 平成25年2月18日 会場 神奈川産業振興センター (横浜市中区)</li> <li>・見学会 ① JAXA地球観測センター ② ホンダ技研埼玉製作所 期日 平成26年2月26日 参加者 53名</li> <li>・『アーク溶接特別教育』 54名</li> <li>・『粉じん作業特別教育』 151名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年度(第63回)全国溶接技術競技会を一般社団法人神奈川県溶接協会主催で開催することを決定した。 競技会場は (株)IHI 横浜工場とした</li> </ul>
平成26年度 (2014年)		平野賢治	411社	5976名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演会『アルミニウム材料の溶接』 参加者 48名 期日 平成27年3月10日 会場 神奈川産業振興センター (横浜市中区)</li> <li>後援 (一社)軽金属溶接協会</li> <li>・見学会 期日 平成27年2月18日 参加者 24名 見学先 ① 立川都民防災教育センター ② 宇宙航空研究機構 相模原キャンパス</li> <li>・第5回 関東甲信越高校生溶接コンクール 同時開催 全国選抜高校生溶接コンクール 期日 平成26年4月26日 会場 東京ビックサイト 2014国際ウェルディングショー特設会場 全国9地区溶接協会連絡会から推薦された選手 関東甲信越は22名参加 全国選抜は 17名参加</li> <li>・グラインダ特別教育を実施以後継続 一般財団法人日本溶接技術センターと共催</li> </ul>	
平成27年度 (2015年)		平野賢治	411社	5912名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見学会 期日 平成27年11月17日 参加者 22名 見学先 ① 海洋研究開発機構 横浜研究所 ② 住友重機械マリンエンジニアリング(株)横須賀工場</li> <li>・講演会は開催しない</li> </ul>	平成27年度より神奈川県溶接技術コンクール第2部を参加者減少につき中止した 以後は廃止した



平成28年度 (2016年)	平野賢治会長が退任し 志賀啓介会長となる	志賀啓介	428社	6030名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演会 『ステンレス鋼溶接の実際』 期 日 平成28年11月10日 会 場 神奈川産業振興センター 参加者 100名</li> <li>・見学会 ① 量子科学技術研究開発機構那珂核融合研究所 ② 新日鐵住金(株)鹿島製鉄所 期 日 平成29年2月24日 参加者 29名</li> </ul>	
平成29年度 (2017年)	平成29年度(第63回) 全国溶接技術競技会を開催する  岩井専務理事が退職	志賀啓介	445社	6095名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年度(第63回) 全国溶接技術競技会東部地区神奈川大会 期日 平成29年10月21日 開会式 平成29年10月22日 競技会 開会式会場 横浜ロイヤルパークホテル 鳳翔 競技会会場 (株)IHI 横浜事業所 参加者 被覆アークの部 56名 半自動溶接の部の部 56名</li> <li>・創立60周年記念式典を開催 期日 平成29年12月16日 会場 メルパルク横浜 ・参加者 102名 * 貢献賞 表彰 金井昭男氏・岩井忠義氏</li> <li>・見学会 ①三菱重工業(株)相模原製作所・三菱重工エンジン&amp;ターボチャージャ(株) ②いすゞ自動車(株)藤沢工場・いすゞプラザ 期日 平成30年3月2日 参加者 39名</li> <li>・講演会は実施せず</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人賛助会員を廃止し個人会員を設ける</li> <li>・被覆アーク溶接の部 全国優勝 (株)IHI横浜工場 根崎 弘崇</li> </ul>

平成30年度 (2018年)		志賀啓介	445社	6132名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第9回関東甲信越高校生溶接コンクール@東京ビッグサイト 期日 平成30年4月28日</li> <li>・講演会『ステンレス鋼溶接の実際について』 期日 平成30年11月20日 会場 (一財)日本溶接技術センター 参加者 80名</li> <li>・見学会 NEXCO中日本高速道路(株) 新東名高速道路 秦野管内工事現場 期日 平成30年2月20日 参加者 19名</li> <li>・第10回神奈川県高校生溶接コンクール (第10回関東甲信越高校生コンクール) 課題がA-2FからN-2F相当へ変更</li> </ul>	
令和1年度 (2019年)	志賀会長が退任し 平野隆会長となる	平野 隆	430社	5809名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和1年度(第65回) 全国溶接技術競技会九州地区沖縄大会 期日 令和1年11月16日 開会式 令和1年11月17日 競技会 開会式会場 ロワージュールホテル那覇 競技会会場 ポリテクセンター沖縄</li> <li>・講演会『溶接欠陥・検出・補修技術』 期日 令和1年11月13日 会場 (一財)日本溶接技術センター 参加者 43名</li> <li>・見学会 ①東芝エネルギーシステムズ(株)京浜事業所 ②(株)IHI横浜事業所 ③ジャパン・マリンユナイテッド(株)横浜事業所磯子工場 期日 令和2年2月12日 参加者 42名</li> <li>・JICA事業の協力で、ミャンマーへ実技講師(槻館・香川)派遣</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被覆アーク溶接の部 全国優勝 東芝エネルギーシステムズ(株)京浜事業所 <b>馬原 涼太</b></li> <li>・定時総会にて定款一部改訂</li> <li>・志賀前会長が(一社)日本溶接協会貢献賞 受賞する</li> <li>・神奈川県溶接技術コンクールの課題変更</li> </ul>
令和2年度 (2020年)	* 新型コロナウイルスの感染 拡大により4月～5月の評価 試験が全国的に中止となる	平野 隆	社	名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国溶接技術競技会中部地区三重大会は、コロナウィルス感染拡大防止 の為、延期となる。</li> <li>・第11回関東甲信越高校生溶接コンクールは、コロナウィルス感染拡大防止の為、 中止となる。</li> </ul>	

平成21年4月～(社)日本溶接協会協会神奈川県支部は一般社団法人神奈川県溶接協会になりましたので平成21年4月から支部長の呼称は会長になりました。

支 部 長/会 長	任 期
柴田 晴彦	昭和32年～昭和33年度
	1期(2年)
三上 博	昭和34年昭和63年
	15期(30年)
隈部日出夫	平成1年～平成4年
	2期(4年)
池田 健治	平成5年～平成7年
	1期半(3年)
相原 正公	平成8年～平成18年
	5期半(11年)
村上 秀夫	平成19年～平成24年
	3期(6年)
平野 賢治	平成25年～27年
	1期半(3年)
志賀 啓介	平成28年～平成31年
	1期半(3年)
平野 隆	令和1年～現在

備考 任期の1期は2年です

評価試験会場 (定期試験)	・全国溶接競技会 神奈川県開催
1. 神奈川県工業試験場 昭和32年～昭和55年まで	1. 昭和35年 神奈川総合職業訓練所
2. (社)日本溶接協会溶接技術中央検定場 昭和56年～現在に至る	2. 昭和48年 三菱重工業(株)横浜製作所
3. (財)日本溶接技術センター 昭和56年～現在に至る	3. 昭和51年 新日本製鉄(株)製品技術研究所
4. 日立精工(株)現日立ピアエンジニアリング(株) 昭和59年～平成21年2月 終了	4. 昭和57年 溶接技術中央検定場
	5. 平成13年 三菱重工業(株)横浜製作所
	6. 平成29年 (株)IHI 横浜事業所